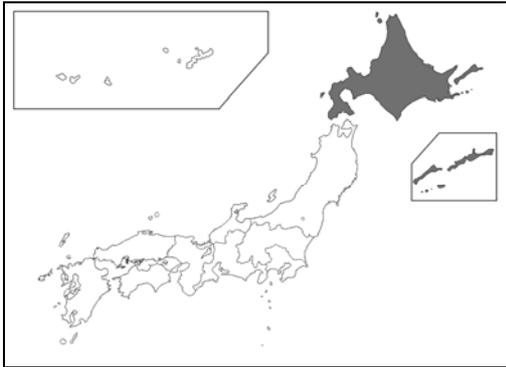


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直し基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 2 月)	今回 (平成 27 年 5 月)	
鉱工業生産	緩やかに減少	下げ止まっている	

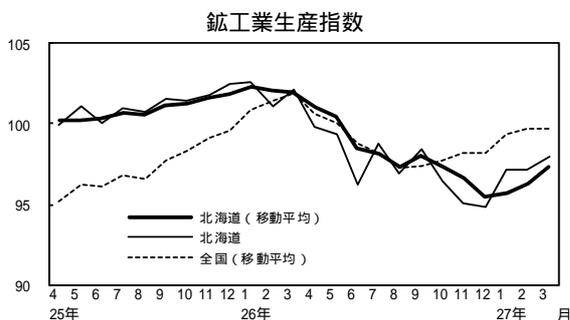
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産業の水揚量は前年を下回っている。

1～3月期には、生乳生産は牛乳等向けが増加したため、総量では950,467tと前年比1.0%増となった。水産物の水揚量(主要8港)は、するめいか(生)等が減少したため、前年比3.0%減となった。

(2) 鉱工業生産は、下げ止まっている。

1～3月期には、食料品は、主にチーズ、乳製品、清涼飲料水が好調だったこと等から増加した。パルプ・紙は、海外輸出に用いる板紙、ダンボールの需要が好調だったこと等から増加した。電気機械は、スマートフォン新機種としての無線通信装置が好調だったこともあり増加した。鉄鋼は、大型パイプライン向けに鋼材需要があったこと等から増加した。輸送機械は、鋼船の需要が好調だったこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
食料品	24.2	0.3	2.9	4.0	3.8	3.3
パルプ・紙	11.9	1.7	4.9	2.3	2.5	0.3
電気機械	11.7	1.7	5.3	1.2	4.5	6.8
鉄鋼	7.5	2.1	3.3	5.6	2.8	4.4
輸送機械	7.0	5.5	2.6	5.6	10.7	10.2
鉱工業	100.0	2.6	2.0	2.4	0.0	0.8

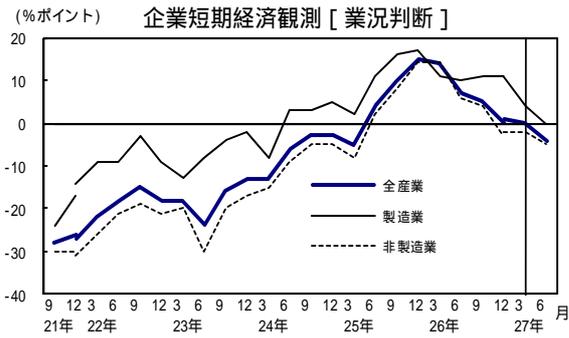
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1～3月期、3月は速報値。

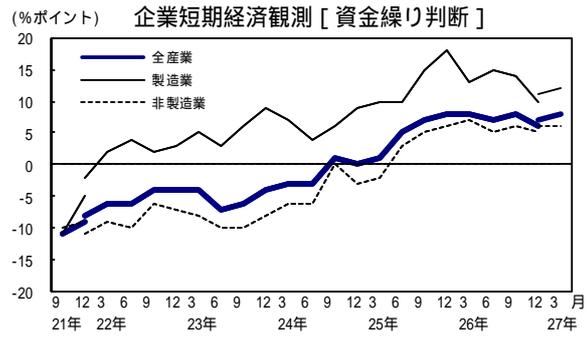
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。

2. 全国及び北海道の太線は後方3か月移動平均。

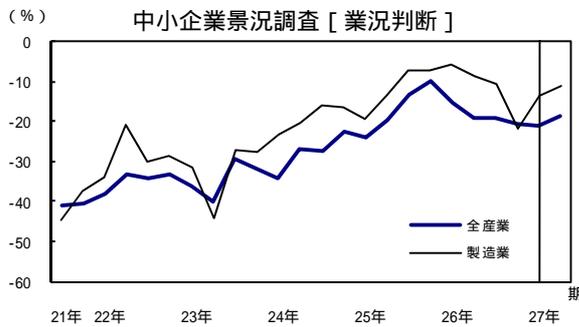
(3) 業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年6月は予測。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。

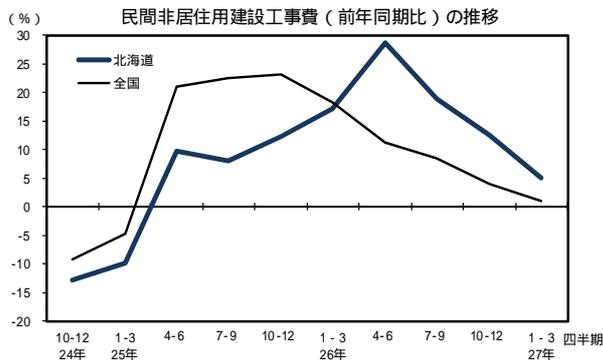


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「外国人観光客の急増などにより、ホテルの稼働率が高まっていることで、建築工事費の高騰を考慮しても事業の採算性が図れるとの判断で、ホテル業界からの改修や増築の引き合いが増えている(建設業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

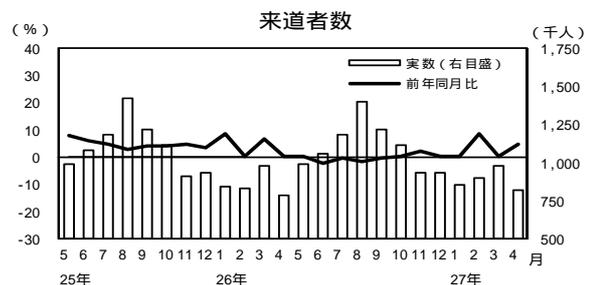
(前年度比、%)

	26年度実績見込み	27年度計画
全産業	14.0(0.5)	5.1
製造業	10.5(3.4)	16.8
非製造業	29.0(2.2)	0.1

(備考) 1.()は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2.リース会計対応ベース。

(5) 観光は、緩やかに増加している。
来道者数は、「雪まつり」、「春節」で観光客利用が増えたこと等により増加した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.5%減、2月は同2.2%増、3月は同0.3%減となった。

大型小売店販売額

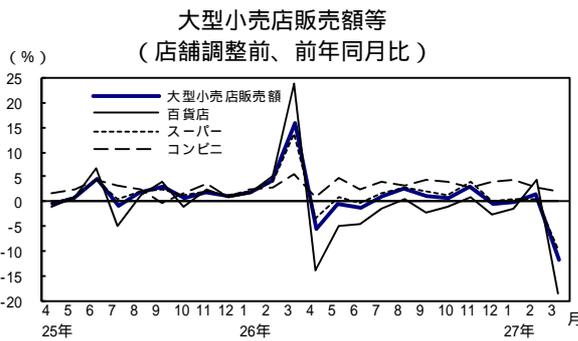
百貨店は、1月は、その他は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、飲食料品は前年を下回った。2月は、身の回り品は前年を下回ったものの、衣料品、飲食料品、その他は前年を上回った。3月は、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他のすべての品目で前年を下回った。

スーパーは、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他のすべての品目で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

北海道地域の家計動向関連DIは、55.8となり前月より3.9ポイント上昇した。

「外国人客による売上が前年比240%、国内客による売上が前年比110%近くとなり、2014年の消費税増税後の落ち込みから回復している (百貨店)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

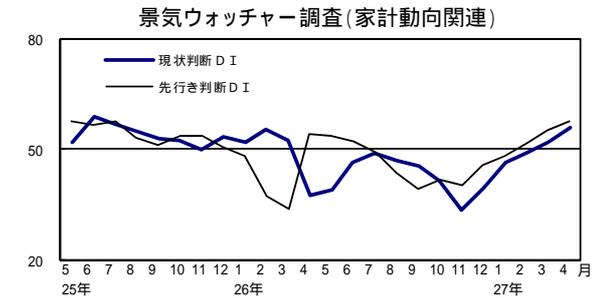
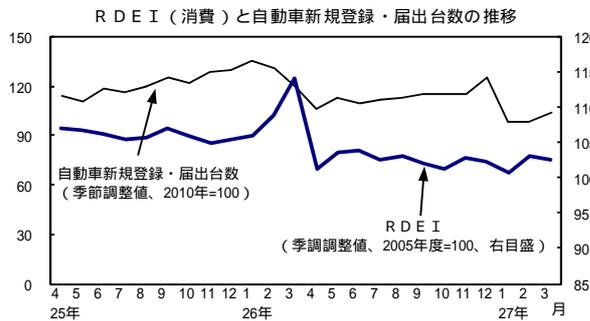


	27年1-3月	27年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.0	1.5	2.2	0.3
大型小売店(*2)	4.2	0.1	1.4	11.9
百貨店(*2)	6.8	1.5	4.2	18.4
スーパー(*2)	3.4	0.3	0.6	9.8
コンビニ(*2)	3.1	4.3	2.7	2.1
乗用車(*3)	17.5	26.8	23.5	8.5
(季節調整値)(*3)	15.6	21.8	0.2	5.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

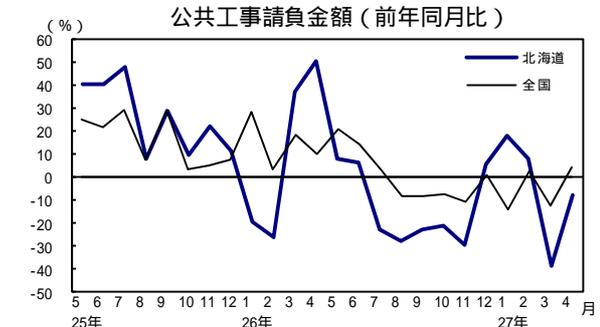
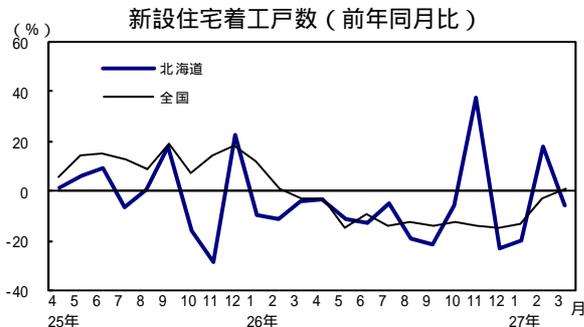
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を下回っている。

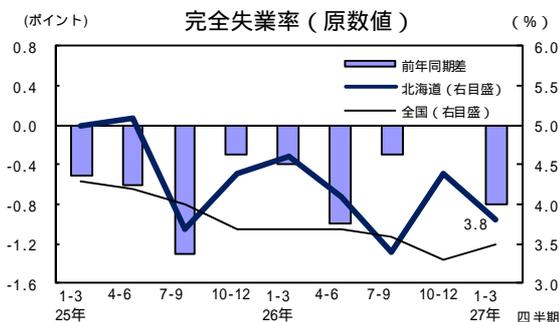
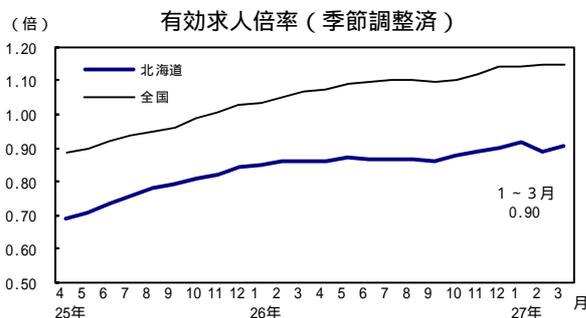


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

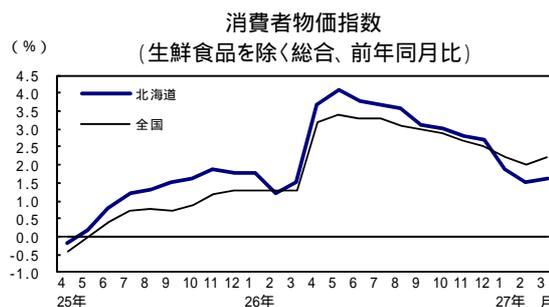
「求人件数が増加傾向にある。ただ、新規求人の依頼が横ばい傾向になっている（求人情報誌製作会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年4-6月	7-9月	10-12月	27年1-3月	27年4月
倒産件数	77	73	59	82	24
(前年比)	19.8	3.9	14.5	10.9	25.0
負債総額	176	151	81	245	42
(前年比)	96.7	20.0	41.5	55.7	61.4



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・今年は雪解けが早かったことに加えて、気候も安定していることから、消費面でプラスに働いている。旧正月後も外国人観光客が順調に来道しており、好調に推移している。外国人観光客を狙った新規出店も増えている（商店街）。

<先行き>

・多少価格が高くても、品質の良い商材であれば買うといった傾向が出てきているため、今後についてはやや良くなる。実際に新商品の売上が予想以上に伸びている（美容室）。

景気ウォッチャー調査

(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

